

要約

表 題 J-10-050のメダカ (*Oryzias latipes*) に対する急性毒性試験

試験方法

- 1) 暴露方式 半止水式 (24時間毎に全量換水)
- 2) 暴露期間 96時間
- 3) 試験濃度 対照区, 飽和溶液区
- 4) 試験液量 3 L/容器
- 5) 連数 2容器/試験区
- 6) 供試生物数 10尾/試験区 (5尾/容器)
- 7) 試験温度 23.6~24.1℃
- 8) 照明 室内光、16時間明/8時間暗
- 9) 分析法 高速液体クロマトグラフ法

結果

1) 試験液中の被験物質濃度

被験物質は試験用水中で変化するため24℃で48時間かく拌した溶液 (飽和溶液) にて試験実施した。ばく露期間中の試験液の被験物質測定濃度は24時間換水の新液および経時液のすべての濃度の幾何平均にて求めた。変化物 (J-10-055およびJ-10-056) についても同様に求めた。

- 2) 被験物質 LC50 (96h) : > 2.29 μ g/L (95%信頼区間: 算出不可)
変化物 (J-10-055) LC50 (96h) : > 440 μ g/L (95%信頼区間: 算出不可)
変化物 (J-10-056) LC50 (96h) : > 3.18 μ g/L (95%信頼区間: 算出不可)

- 3) 0%死亡最高濃度 (LC0) : 限度試験のため求めなかった。
100%死亡最低濃度 (LC100) : 限度試験のため求めなかった。